

# 伊 議 会 だ よ り い さ ん

第48号

発行 伊仙町議会

〒891-8293

大島郡伊仙町伊仙1842

事務局 ☎ (0997) 86-3111

編集 議会広報編集委員会

印刷 尚奄美新社印刷

牛主：荻田 武志  
牛名：みなみ号  
賞：平成27年8月28日(金)「徳州肉用牛共進会」若雌第1部グランプリチャンピオン  
平成27年10月3日(土)「第64回鹿児島県畜産共進会」若雌1区最優秀賞



平成27年 第1回 臨時議会・第2回 臨時議会・第3回 定例議会 全議案

議案番号	議案件名	備考
<b>第3回(9月)定例議会</b>		
報告第7号	平成26年度健全化判断比率	可決
報告第8号	平成26年度資金不足比率	可決
同意第1号	伊仙町固定資産評価審査委員の選任	同意
同意第2号	伊仙町固定資産評価審査委員の選任	同意
同意第3号	伊仙町固定資産評価審査委員の選任	同意
議案第42号	伊仙町特定個人情報保護条例の制定	原案可決
議案第43号	伊仙町行政手続きにおける特定の個人を識別するための番号の利用等に関する法律に基づく個人番号の利用及び特定個人情報の提供に関する条例の制定	原案可決
議案第44号	伊仙町手数料徴収条例の一部を改正する条例	原案可決
議案第45号	伊仙町肉用牛特別導入事業基金条例の一部を改正する条例	原案可決
議案第46号	高齢者等肉用牛導入基金条例の一部を改正する条例	原案可決
議案第47号	平成26年度伊仙町上水道事業会計の利益処分	原案可決
議案第48号	国民健康保険伊仙診療所設置条例を廃止する条例	原案可決
議案第49号	伊仙町立診療所運営審議会条例を廃止する条例	原案可決
議案第50号	国民健康保険伊仙診療所の費用徴収条例を廃止する条例	原案可決
議案第51号	伊仙町過疎地域自立促進計画の一部変更	原案可決
議案第52号	伊仙町辺地総合整備計画の一部変更	原案可決
議案第53号	平成27年度伊仙町一般会計補正予算(第5号)	原案可決
議案第54号	平成27年度伊仙町国民健康保険特別会計補正予算(第1号)	原案可決
議案第55号	平成27年度伊仙町介護保険特別会計補正予算(第2号)	原案可決
議案第56号	平成27年度伊仙町後期高齢者医療特別会計補正予算(第1号)	原案可決
議案第57号	平成27年度徳之島交流ひろば「ほーらい館」特別会計補正予算(第1号)	原案可決
議案第58号	平成27年度伊仙町簡易水道特別会計補正予算(第2号)	原案可決
認定第1号	平成26年度伊仙町一般会計歳入歳出決算	原案可決
認定第2号	平成26年度伊仙町国民健康保険特別会計歳入歳出決算	原案可決
認定第3号	平成26年度伊仙町介護保険特別会計歳入歳出決算	原案可決
認定第4号	平成26年度伊仙町後期高齢者医療特別会計歳入歳出決算	原案可決
認定第5号	平成26年度徳之島交流ひろば「ほーらい館」特別会計歳入歳出決算	原案可決
認定第6号	平成26年度伊仙町簡易水道特別会計歳入歳出決算	原案可決
認定第7号	平成26年度伊仙町上水道事業会計歳入歳出決算	原案可決
陳情第4号	佐弁集落(町営住宅周辺)に関する街灯の設置について	採択
請願第2号	し尿浄化槽清掃業の新規許可を求める請願書	継続審査
陳情第8号	要望書(西伊仙西集落公民館のトイレ緊急改修について)	継続審査
陳情第10号	「NPO法人いせん1・1(伊仙町シルバー人材センター)の事務所移転に伴う町管理施設使用許可に関する陳情書」	継続審査
同意第4号	教育委員の選任について(追加議案)	可決
<b>第1回(7月)臨時議会</b>		
議案第38号	平成27年度伊仙町一般会計補正予算(第3号)	原案可決
議案第39号	平成27年度企業誘致促進整備対策事業貸工場建設工事(1工区)	可決
議案第40号	平成27年度企業誘致促進整備対策事業貸工場建設工事(2工区)	可決
<b>第2回(8月)臨時議会</b>		
議案第41号	平成27年度伊仙町一般会計補正予算(第4号)	原案可決

# 平成27年第3回伊仙町議会定例会において 平成26年度伊仙町一般会計歳入歳出決算他6特別会計歳入歳出決算審査特別委員会

## 決算審査特別委員長報告

(一部抜粋※委員長報告につきましては、町ホームページより「会議録」に掲載しています。)

平成27年9月9日に当特別委員会に付託されました、「平成26年度伊仙町一般会計歳入歳出決算他6特別会計歳入歳出決算」は、9月14日(月)～16日(水)の3日間、議長並びに議会選出監査委員を除く12名の委員で審査致しました。

審査の概要と致しましては、平成26年度各会計決算書、主要施策の成果説明書、並びに施政方針を参考にしつつ、議決された予算の執行状況や、行政効果、経済効果を検証し、また住民に代わって評価するという決算審査の大きな目的に沿って、9月14日(月)に大久保町長はじめ担当課長出席のもと現地調査を実施致しました。

①5款1項14目「青年就農給付金事業費(決算額4,500千円)」の現状と実績報告を兼ねて、小島集落で畜産業を営んでいる受給者の牛舎を現地調査致しました。

まず、経済課職員より「青年就農給付金」に関する概要の説明があり、今回調査を行った農家においては、「経営開始型」という年間150万円を最長5年間受給できる制度を活用し、今後優良素牛の導入を中心に、20頭まで増頭していきたいという目標を述べて頂きました。また、各委員より受給された就農給付金の用途についての質問があり、主に生産牛の購入費や農業器具の購入費に充当しているとのことで、事業の目的である就農初期段階での経営に大きく寄与されている所でありました。しかしながら、生産牛増頭に当たっての課題もあり、特に設備投資や草地の拡大に必要な資金面の支援について、奄美群島振興開発基金等や各種事業を斡旋するなど、規模拡大に向けて積極的に支援されるよう担当課へ要請致しました。



※以下②～⑤の詳細及び、委員長報告の内容につきましては、町ホームページ→暮らし情報→「議会だより」よりご覧下さい。

②10款1項1目「農林水産施設災害査定経費」(決算額23,156千円)について

③6款1項5目「観光拠点連携整備事業」(決算額81,786千円)について

④5款1項12目「生活改善センター運営費」(決算額1,792千円)について

⑤7款2項5目「社会資本整備総合交付金事業費・第二西下線」(決算額67,320千円)について



糸木名地区の一部畑が水没し、農作物の生産に支障を来している現状について調査



犬田布岬公園内の施設改修に係る平成26年度事業の費用対効果についての検証

イッサンサンの様子



## 伊仙町議会

## 木之香集落

# 「第1回地域交流会」

- 日時:平成27年9月19日(土)
- 時間:第1回地域交流会17:00~18:00(イッサンサン参加18:30~)
- 場所:木之香生活館 ●出席者:議員13名・事務局2名・集落住民(地域交流会)

地域交流会の趣旨として、地域活性化施策のなかで重要な「人材育成・後継者育成」に焦点を当てて、各集落の皆様の実状を踏まえたご意見を拝聴するものです。

また、9月の定例会において、議員による地方創生に関する「地方創生総合戦略検討委員会」を設置しましたので、今後の議会による政策立案並びに政策提言に盛り込んでいくことを目的とします。

そして、各集落に昔から伝承される行事(イッサンサン、ムチタボレ、豊年祭り等)に参加させて頂くなど、伝統行事を生で見聞し、伝統を衰退させないよう町民への啓発や後継者育成に向けてのご意見を拝聴する機会と捉えた交流会であります。



交流会の様子



初めてのイッサンサン参加に笑顔も



交流会の様子

## 交流会の内容

平成27年第3回(9月)地方創生総合戦略策定にあたっての各施策を調査研究を行うことを目的に設置された「地方創生総合戦略検討委員会」の委員長である福留委員長のあいさつから始まりました。その後に集落に昔から伝承される行事「イッサンサン」について(※1)を、田中誠一氏より説明を頂きました。

次に、福留委員長より、集落が活性化するための取り組みについての質問があり、木之香集落の川本駐在員より、「現在、木之香集落には、若い方がたくさんいて、いざというときには協力してくれます。

しかし、木之香集落に限らず、若い皆さんが自主的に参加したいという気持ちを作ってあげなければならない」とのことでした。また、若い方に参加してもらうためにはどのようにしたら良いのか考えた結果、「月に1回、場所と語る場を設け、コミュニケーションを図りながら若者と語るなかで、新たな意見が出てきたり、また真剣な話し合いの場を設けることにより、お酒を酌み交わしながら出てくる雑談の中にこそ町そして集落の発展につながるアイデアがあるものだと思うので【飲もう会(かたろわで〜)】」を計画しているとのことでした。

2点目に、木之香集落の伝統芸能でもある「稲すり節」をぜひ復活して頂きたいという要望に対して、川本駐在員より、「現在復活に向けて検討しているが、稲すり節を行うにあたり約30名の人員を集めなければならない、先輩方が次々と卒業して人員が確保出来ない状況であるので、今考えているのは、人員を減らしたパターンを考えている」とのことでした。

また、稲すり節を総括している谷村氏より、活動していた頃は町から予算があり、なんとか活動できた状況であったが、予算がなくなり、維持管理が出来ずに文化協会への会費負担も困難であることから、現在は文化協会からも脱会している状況なので、町より再度予算を頂きたいという要望など、集落の現状を踏まえた貴重な意見を拝聴することができました。

### ～議員の意見として(総括)～

その後、イッサンサンに参加させて頂きましたが、生で伝統芸能を学んだり、衰退しているものを復活することが、人材育成・地域活性化に繋がるものだと思いますので、貴重な意見を取りまとめ今後の施策に活かせるようにしていきたいと思います。

### (※1)「イッサンサン」とは・・・

豊作祈願行事で、「イッサンボー」と呼ばれるかかしを掲げ、歌・踊りをしながら集落全戸を訪問し、招福を祈願するものであり、徳之島が琉球に服属して133年ぶりに大豊作に恵まれて以来、「イッサンサン(133)」と名付けられ十五夜に近い「つちのえ申(さる)」の日に行われるとのことでした。



イッサンサンの様子



踊って歌ったご褒美に

平成27年 第3回定例会

# 一般質問

阿権地区・小島地区で検討



平 博人 議員

## 今後の住宅建設、家賃低廉化事業活用

**問**

現在、伊仙町において、低所得世帯に対して家賃低廉化事業を活用し、家賃の半分を補助されているが、特に子育て世帯においては、経済的負担が軽減され、また、本町への移住・定住を促進する観点からも、効果的な事業であると考えている。子育て世帯や若年層の都市部への流出を防ぐためにも、今後の住宅建設にあわせて、同事業を継続していくのか。さらに今後の住宅建設計画について具体的に問う。

内町長の「とにかく住宅を造って待つ」という言葉がとても印象に残っております。今後、小規模校を存続の意味も含めて、町内均衡ある形での住宅政策が必要ではないかと思えます。また、民間資金を活用した住宅政策においても、現在、上限3万円か3万5千円にするかなどを協議しています。

「建設課長」家賃低廉化事業が対象となる限り申請してきます。用地の所有権を有する場合、町の所有地に建てた場合は10年、そして用地を購

**答**

「町長」移住者対策や空き家対策等も視野に入れていく中で、先進的な取り組みをしている海士町（島根県）

に視察に行ったが、数百棟の住宅を民間と町営を含めた形で建設をしております。山

入した場合は20年の助成というものが決まっています。今後、10年もしくは20年の助成の期間申請して、家賃低廉化事業で対応していこうと考えております。今後の住宅建設に関わる計画については、平成23年に10年計画で作成された伊仙町公営住宅長寿命化計画に基づいて建設を行います。今年が10年のうち5年目になるので、中間見直しをして、27年度中に新たな公営住宅の建設計画を策定する計画になっており、要望のある阿権地区、小島地区等を集落の皆様と話し合いながら進めていきたいと思えます。

## 不法投棄物の管理

**問**

町営住宅敷地内に不法投棄が見受けられる。

町営住宅周辺の環境が損なわれている状態であれば、希望者の移住する意思を削ぐ可能性もあると考える。また移住・定住の推進については、行政支援も必要であるが、希望者を受け入れる集落の体制、いわゆる住民自治に対する理解も重要だと考えるが、町営住宅及び集落へ美化活動に対して、町ならびに教育現場がどのような方針で啓発さ

**答**

## 今年度内に撤去



住宅の敷地内における不法投棄

「建設課長」定期的な建設課住宅係が掃除はしていますが、今後、団地ごとに定期的に話し合いを持ち、団地の敷地内及び周辺の清掃業に取り組んでいくよう、啓発していきたいと思えます。

「教育長」学校教育の中で児童生徒に環境についての意識を高めることは大変重要なことだと考えています。各学校では総合的な学習の時間に環境問題を取り上げ、ゴミの分別やリサイクルなどについて学習しています。クリーン作戦への参加については、呼びかけを常に行っているところです。また、校長会や教頭会においても積極的な参加を要

れているのか問う。

## 斬新な政策が期待される移住支援政策

**問**

本町は、第5次総合計画プロジェクトの一環として、町外の子育て世帯を始め、U・イーターン者向けにPRして取り組んでいく旨の計画が策定されているが、策定にあたっては、他の自治体にはない、本町がモデル地区となり得るような斬新な政策が期待されている。そこでこの計画に関して、現在検討されている移住支援政策についてどのようなビジョンをもっているのか町としての見解を問う。

**答**

## 全国唯一離島版CCRCのモデル事業を目指す

「企画課長」現在検討している移住支援策としては、国が進めている日

請し、啓発活動に努めています。

本版CCRC構想(生涯活躍のまち)を目指していく予定であります。生涯活躍のまち構想は、東京圏を中心とする地域の高齢者が希望に応じて地方に移り住み、健康でアクティブな生活を送り、必要に応じて医療、介護を受けることができるような地域づくりを目指すものであり、伊仙町としては、全国で唯一「離島版CCRC」のモデル事業ができるように、現在取り組んでいるところであります。



**徳之島農業高等学校跡地利用について**

**問** 徳之島農業高等学校の一部跡地が県より譲渡されてから、効果的な活用がなされていない状況にあります。本町議会においても、県へ徳之島農業高等学校跡地に大島養護学校の設置について

の要望を行い、いずれも県議会の改選に伴い審議未了となつている。今後、要望書の趣旨を踏まえて、農高跡地の利用について、町執行部と改めて協議する必要があると考えるが、これまでの要望書の趣旨について町としてどのような考えをしているか、見解を問う。

**新たな協議会にて議論**

**答** 「町長」農業高等学校の跡地については、協議会を設立して、教育委員会事務局、歴史民俗資料館が移設と言う事で決定しております。その後に關しては、再開していかない状況でありますので、教育委員会と協議をして、今後県の動向などを見ながら、再開して行く必要があると思います。

美山 保 議員

養護学校に關しましては、県の方と過去何回か要望書を含めて要望してきています。県の方はいろいろな理由を挙げており、例えば生徒さんが少ない、教職員を配置しなければならぬことや、いろいろ

る施設を開所しなければいけないなど話をしていきますので、今後は新しい協議会のなかでいろいろ議論をしていかなければなりません。

**農業研修センターの創設について**

**問** 徳之島農業高等学校が所有していたビニールハウスの施設や農場、加工作業施設を利用した農業研修センターの創設について検討できないか。また同センターの創設に向けて計画を進めることで、徳之島用水事業における水を利用した農作物の研修や特別支援を必要としている児童の就労支援にもつながることが期待され、いずれも町民所得の向上に寄与するものと考えているが、町長の見解を問う。

**答** 「町長」ビニールハウス等の活用なども出ておりますので、鹿児島県教育委員会といろいろ協議をしていく中で、大きな前進がない場合は、町としては先程申し上げた民間資金の活用などして、町が今後フリーハンドでいろいろできると思います。ただ、校舎の半分は徳之島高校の管理になりますので、その辺りを徳之島高校の今後の計画など明確に確認しながらやっていかなければいけないと思います。

**管理下にある徳之島高校の今後の状況確認をしながら**

**答** 「町長」ビニールハウス等の活用なども出ておりますので、鹿児島県教育委員会といろいろ協議をしていく中で、大きな前進がない場合は、町としては先程申し上げた民間資金の活用などして、町が今後フリーハンドでいろいろできると思います。ただ、校舎の半分は徳之島高校の管理になりますので、その辺りを徳之島高校の今後の計画など明確に確認しながらやっていかなければいけないと思います。

上げた民間資金の活用などして、町が今後フリーハンドでいろいろできると思います。ただ、校舎の半分は徳之島高校の管理になりますので、その辺りを徳之島高校の今後の計画など明確に確認しながらやっていかなければいけないと思います。

**古里海岸の砂が流出して集落が危険**

**問** 古里集落の海岸においては、台風たびごとに砂が東面縄の海岸方面へ流されておられ、また突堤の基礎が先掘され、岩礁が波に洗われてむき出しになり、さらには消波ブロックが沈下するなど、さまざま被害を受けている。特に古里集落の海岸においては、毎年ウミガメの産卵が確認されており、環境的にも安全な場所であり、また、古里集落のみならずから砂の流出を防止して頂きたいとの要望があります。

そこで、今後砂防止策として、海岸事業で国や県に補助事

業として突堤や離岸堤を建設することを協議することはできないか問う。

**答** 「建設課長」砂浜がなくなっているというのは、全国的な現象であるようです。毎年160haくらいの砂浜が消えているとのこと。現状を調査して、こういう対策はどのようにするのか検討しながら、国、県と協議して行きたいと思っております。ただ、ウミガメ保護のための対策(事業)というのとはほとんどないとのことでありました。



洗掘された突堤



美島 議員

**地方創生の  
計画策定について**

**問** 伊仙町における「まち、ひと、しごと創生総合戦略」を策定して事業の申請をしますが、どのような事業を計画しているのか。また今回の集落座談会への参加が19集落377名であったが町民への説明は十分できているのか問う。

**「生涯活躍のまち」(CCR C構想)を指して  
事業を計画**

**答** 「町長」地方創生に対して各集落で説明をしています。しかし、まだまだ十分に理解されているとは思っていません。

今後事業委託しているコンサルタントと協議を行い、各種団体の代表者や議会代表などから情報を集めて最終的な取りまとめをしてまいります。

「企画課長」事業委託をしているコンサルタントに策定推進会議及び、プロジェクトチーム等、会議のたたき台の原案を作成していただいているところで、「生涯活躍のまち」(CCR C構想)を指して事業を計画、申請することいたしました。

**伊仙町における予算枠は**

**問** 地方創生における事業の補助率が2分の1補助で、全国の予算枠が1115億2千万円ですが、伊仙町における予算枠はどうなっているのか。また事業計画が一方通行にならないように多方面に活かされなければならないがどの様な計画があるのか問う。

**上限5千万円**

**答** CCR C事業(生涯活躍のまち)に関しては、上限5千万円枠ですが、地方総合戦略に関連する事業の計画に関しては、各課の分野ごとに計画し、また、町民へのアンケート調査も予定していますので協議をしながら策定をしていきたいと思っております。CCR C構想事業の概要については、①集落住民と移住対象者のニーズを調査・分析し地域包括ケアシステムを核としたコンパクトビレッジに必要な要件の明確化。②地域住民との交流や組織横断の健康増進プログラム等の活用で生活の質の向上が体験できる移住のモデル事業の実施。③ICTを活用した人材育成を行い健康長寿や、生活の質向上を目指し、さまざまな職種の人材拡充。④コンパクトビレッジに連携した地域包括システムの運用及び小規模校連携に活用するバス等の購入事業等の4点でございます。

**伊仙町  
農業振興計画について**

**問** 本年の3月に「伊仙町農業振興計画(平成27

年)31年)が農業を中心とした「産業が立ち上がるまち」を理念に策定されました。農業振興計画を推進するにあたり農業振興戦略会議は設置されたのか問う。

**計画の  
改善見直し等を行う**

**答** 「町長」伊仙町は農業立町であります。最大のテーマは農業生産額50億円達成であるため、農業振興戦略会議を開く必要があります。

「経済課長」新規品目の選定と農業全般に関して多面的に検討し、戦略的な議論をしてまいります。また計画の立案、推進、評価、改善見直し等を3ヶ月に1回程度予定しています。

**問** 地方創生農業支援整備計画策定事業の計画はどうなっているのか問う。

**議論中であり、事業の  
導入を検討している**

**答** 「経済課長」地方創生の繰越予算7百万円です。ありますが、診療所跡地や、農業高等学校跡地を利用して

の農業支援センター等は行えないのかと、いろいろ多目的に戦略会議の中で検討してまいりたいと考えています。また地方創生の各種事業に向けては、経済課の中で現在議論しているところであり、事業の導入について検討しているところでございます。

**今期夏植えの目標達成は  
できるのか**

**問** 本町は群島内最大の耕地面積がありながら、農業従事者の減少、生産額も減少しているが、原因について検証し対策を講じているのか。また、さとうきび部会の役員や担当員の廃止等に伴い今期夏植えの目標達成はできるのか問う。

**若手の農業従事者を増や  
す取り組みが重要課題**

**答** 「町長」農家戸数の減少や生産額の減少の原因はいろいろ要因があると思えますが、やはり農業振興計画をしっかりと立て、それを着実に実現、行動していくということが足りなかったと思っています。「経済課長」町の人口も相当

の割合で減少しており、自然災害等もあります。農業従事者の高齢化が進み、若手の農業従事者を増やす取り組みが今後重要課題だと考えております。さらにサトウキビに関しては、単収向上推進室の設置で課題解決に取り組んでまいります。今期夏植え目標200haに対して84haと目標面積は現時点で達成できそうにない状況にあります。



阿権集落 土地改良後の風景

**各種補助事業がなくなり、営農意欲低下に拍車**

**問** 相次ぐ台風の影響や、メイ虫被害、害獣被害などで徳之島の基幹作物である、サトウキビは2年連続減収となっている。この状況が続けば、2製糖工場が一つに集約され、1工場体制にもなりかねない。また、南西糖業



議員 徳久 牧

も担当員制度を廃止し、農家は不安を募らせている。これに加えサトウキビの種苗補助事業もなくなり、営農意欲の低下に拍車をかけている。この状況を踏まえ、打開策は考えられないのか問う。

**国にも状況を強く訴え、要望することが打開策**

**答** 「町長・経済課長」担当員制度を廃止したことは、南西糖業の経営が非常に厳しくなっているからであります。しかしどんな事があることも2工場を維持するという事を会社側が明言しました。今期までは増産基金事業で農家負担を軽減するため、種苗や肥料等に助成して参りましたが、この増産基金事業がセーフティネット基金と

なり、助成が出来なくなりました。この基金が発動する要件として、病害虫発生注意報・警報等の発動、1ヶ月の降水量が平年に比べ1割未満、または台風被害などで被害率が10%を超える場合に発動することに

なります。国に強く訴えて要望し同様の制度が復活できるようにしていきたいと思えます。

**浮魚礁設置で漁業振興**

**問** 台風など荒天続きで漁業者には欠かせない浮魚礁が流出し、少なくなっている。漁業振興のため、各関係機関とも連携し、浮魚礁の設置は考えられないのか問う。

**伊仙町漁業集落で対応**

**答** 「経済課長」海上保安部及び大島支庁に確認をしながら、流出届を提出している段階であり、伊仙町漁業集落でも役員会を持ち申請していく事を確認していま

す。また浮魚礁のロープ、シヤックル等を補強し、流出以前と同じ位置に設置するよう進めているところでございます。

**大勢の観光客来島に備えた受け入れ体制整備**

**問** 平成29年度に奄美・琉球諸島が世界自然遺産登録を目指し、官民一体とな

って取り組んでいます。残念な事に当初予定の平成28年度から29年度になり、つい最近になって平成30年以降と大幅に延びるようであるが、これが実現すれば、大勢の観光客の来島が予想されますが受け入れ体制は考えているのか問う。

**外国語を含めた案内看板が必要**

**答** 「企画課長」受け入れ体制については交渉中です。また島内において、観光案内看板などが少ない現状であります。あと外国語を含めた看板が必要で、英語の通訳などの養成も進めて行きたいと思

います。奄美群島広域事務組合、その他関係機関とも連携

して取り組んでいます。広域的な取り組みとしてエコツアーガイドの養成とか外国人観光客の増加に備えての奄美群島特例通訳案内士の養成などを行っています。

**新たな観光資源の発掘で魅力ある観光地づくり**

**問** 新たな観光資源の発掘や、町内各地に点在する鍾乳洞など伊仙町には、まだまだ未開発の宝が数多く存在するが、これを再開発し、魅力ある観光地づくりに貢献できないのか問う。

**豊かな観光資源を生かすのも政策の課題**

**答** 「企画課長」伊仙町には豊かな観光資源がいっぱいあります。瀬田海、喜念浜の海水浴場、犬田布岬、小原海岸の絶景スポット、カミイヤキ窯跡、新田神社等の歴史・民謡・伝説の地等、そして、阿権の樹齢300年ガジュマル、石垣の小道、小島の暗川、検福の銀竜洞など、癒しのスポットが数多くあり、有効に観光地として生かすのも政策の課題であり、重要と思われれます。これらの

観光資源を生かすように伊仙町観光事業計画書を作成し、県補助の魅力ある観光地づくり事業で整備が進められないか検討を行っております。鍾乳洞に関しては、沖永良部がケイビングのメッカとして多くの観光客が来島しています。伊仙町においても数多くの鍾乳洞が確認されており、そのうち2カ所が観光地でありましたがこれの復活など前向きに検討したいと考えております。

**大雨被害で水没し、ため池化した畑の救済を**

規地区として予定していましたが地区内における地権者や登記名義人の不明または、死亡に伴う相続者が多数になり、反対する方もいるので国営の犬田布団地、八重竿団地の畑かん部門を先行し、詳細な登記名義人の調査や反対者の説得等を行い時間をかけて進めて行く旨、県と交渉中であります。水没した畑については、3年ほど前から水没して、一旦は水がなくなりましたが豪雨のたびに冠水し、昨年重機を借り上げ、地下浸透するよう深く掘削したが相変わらず水が引かず現在に至っています。今後、川の方に側溝を掘り、水を抜くなど地権者を含めて前向きに話し合いを進めていきます。

**問** 県営畑総糸木名地区の着工予定はいつ頃なのか。また、相次ぐ集中豪雨や50年に一度の大雨被害で糸木名地区では畑が水没し、未だに水が引かず、ため池と化している。早急に対策を講じる必要があると思うが、出来るのか問う。

**予算計上し、一日でも早く対応**

**答**

「耕地課長・経済課長」糸木名地区につきましては、当初28年度新



銀竜洞 (上検福集落)

**どうなった？ あの一般質問の行方は…**

平成26年に行われた定例会で通告された一般質問を追跡調査し、随時掲載して参ります。

**(第4回定例会 美島議員の一般質問)**

指名入札制度から電子入札制度の導入を検討することでありましたが、現状はどのようになっているのか。また今後、町内業者育成の観点から、どのような取り組みや指導・研修等を考えているのか問う。

**(回答：建設課長)**

電子入札運用開始に向け役場内での事業課及びこれからの入札する可能性のある課にむけて研修を行いました。今後、業者に向けての研修会や説明会を県並びに伊仙町建設協会などの協力を得ながら、1月中には行えるよう調整中であります。

**(その後)**

平成27年11月に紙媒体も併用して電子入札を行いました。平成28年度からは、完全に移行できるように取りかかっています。

**(第1回定例会 牧議員の一般質問)**

水道事業におきましては、平成20年度から西部地区の老朽管更新事業を取り入れ、町民に対し安心・安全な水の供給には鋭意努力されていると思います。しかし、河川やミニダムなど表流水がありながら地下水に依存している現状を踏まえ、西部地区を中心に多くの町民が水質改善を強く要望しています。早急にこれを改善できないのか問う。

**(回答：水道課長)**

今後の西部地区の水質改善策としては、水源の杉原川を水源とする河地浄水場への導入管の復活と、老朽化した河地浄水場の設備の整備を行っていきたいと思います。

**(その後)**

平成26年度から原水導水管更新事業により工事を実施しているが、現在西部地区(8地区)のうち5地区を完成させ、残る3地区については、現在延長工事を実施しています。完成すると、今まで課題であった高度(石灰)の改善ができる見込みです。

次回は、農業に関する課(経済課・耕地課・農業委員会)について調査を行い掲載して参りたいと思います。



あなたの声が  
地域を変える

# 町民の 声

(インタビュー者：福留 達也 議員)

榊田和也さんは、目手久出身のいわゆるリターン者であります。

関西において長年設計管理、住宅管理業務の仕事に携わっていました。人生85歳まで元気だと言われている時代、家庭を守り、子育て等一家の主としての責任が一段落した55歳の時に早期退職の道を選択し、自身の中で長年思い描いていた、故郷徳之島において第二の人生を…

- 先祖代々の墓を守る
- 自分で設計した家を自身の手で建築する
- 自然環境の豊かな徳之島で農業をしながら自給自足の生活を送る

このような夢を描き昨年の9月に帰島した方です。

現在伊仙町においては、地方創生の一環として「生涯活躍のまち」構想を計画しており、その先駆的なモデルのような榊田さんを取材してきました。



自ら設計、建築まで手がけた自宅前での榊田和也さん

## 声 伊仙町に暮らして感じること

帰る田舎がある幸せを感じながら、日々チャレンジする農業を楽しんでいます。想定外のこともしばしばありますが、そんなことも含めて日々充実しています。



## 声 今後の伊仙町に期待すること

地域を変えていく方法は様々ですが、「若者・よそ者・変わり者」の力を借りての変革ということがもう少しあったら面白いと思います。幸いなことに伊仙町にはそういった方たちを受け入れる風土が多く残っていると感じています。また島外から人を呼び込む為には、月額いくらで生活できるのか？そのためにはどのような作物をどれ位の面積で耕作すればよいのか？そのためにはどのような準備をすればよいのか？等々、移住したいと考えている方に自分なりの将来像を逆計算することのできる資料の提供を行なうことは大事だとも思います。

農業に関しては、農家の様々な相談に乗っていただける、普及員や指導員の制度の充実を望みたいと思います。農産物や特産品のPRの仕方にもう少し工夫があってもいいのかなと思います。

最後に、現在榊田さんには関西に奥さん・子どもがいらっしゃいますが、奥さんも定年後には徳之島に移住したいという希望があるとのことでした。

紙面の都合上インタビューした半分も掲載できませんでしたが、約1時間のインタビューではありましたが大いに勉強になりました。

## インタビュー 「町民の一言いわせて」募集

このように広報委員会において「町民の声」としてインタビューを行って参ります。

インタビューの内容においては様々です。

掲載を希望する方がいらっしゃいましたら、議会事務局まで御連絡下さい。

**徳之島3力町  
議会議員連絡協議会に  
おける奉仕作業**

平成27年10月31日(土)に行われた「国民文化祭」を前に、10月16日(金)亀徳新港周辺において、徳之島3力町議会議員連絡協議会活動の一環として始まった「3力町合同ボランティア作業」が行われました。この一年を通して、3力町にて作業を行ってまいりましたが、これからもますます3力町議会が一体となり徳之島の発展に寄与すべく引き続きこのような活動をおこなってまいります。たいと思えます。



**議会の動き**

平成27年第3回伊仙町議会定例会における諸般の報告(議長の動静)  
動静期間:平成27年第2回定例会(閉会6月19日)以降の分

**6月**

- 19日 集落座談会(かたろわでえー)(下検福生活館)
- 26日 関西郷友会一行歓迎会(ほーらい館)
- 27日 徳之島3力町議会議員連絡協議会奉仕作業(天城町)
- 28日 徳之島三町老人クラブ連合会文化交流研修会(ほーらい館)

**7月**

- 7日~8日 正・副議長研修会(霧島市)
- 14日 第1回臨時会告示
- 16日 第1回臨時会開会(議事堂)
- 21日 公立高等学校生徒募集説明会に関わる情報交換会(徳之島町)
- 22日 公立高等学校生徒募集説明会(徳之島町)
- 23日 平成27年度第13回伊仙町子ども議会(議事堂)
- 24日 企業誘致促進整備対策事業貸工場建設に伴う地鎮祭(糸木名)
- 28日 禧久伸一郎県議及び鹿児島県による台風12号被害調査(町内)
- 30日 町民体育祭準備委員会(教育委員会会議室)
- 31日 トライアスロンIN徳之島実行委員会(天城町)

**8月**

- 3日 第4回全員協議会(議会委員会室)
- 4日 県道未整備地区(字義ノ津)の早期拡幅工事着工に関する要望活動に伴う、町執行部との協議(町長室)
- 7日 県道未整備地区(字義ノ津)の早期拡幅工事着工に関する要望活動(徳之島町)

- 平成27年第2回伊仙町議会臨時会告示
- 8日 伊仙町合同金婚式(ほーらい館)
- 10日 平成27年第2回伊仙町議会臨時会(議事堂)  
「オーストラリアの指導医による特別講演会」(徳之島町)
- 11日 鹿児島県港湾課長「面縄港」視察に伴う立ち合い(面縄)
- 21日 第5回全員協議会・常任委員会・広報編集委員会  
伊仙町商工会との「地方創生に関する意向調査」(ほーらい館)
- 24日 台風15号接近に伴う状況調査(町内)
- 25日 台風15号に関わる災害調査(町内)  
国民文化祭実行委員会(中央公民館)
- 28日 徳州肉用牛共進会(徳之島中央家畜市場)
- 29日 防災訓練(町内)  
仙寿の里納涼祭(仙寿の里)
- 30日 第47回徳州女性連大会(ほーらい館)

**9月**

- 1日 平成27年第3回伊仙町議会定例会告示
- 1日 JAあまみ徳之島地区野菜部会総会(徳之島町)
- 3日 各常任委員会・議会運営委員会(議会委員会室)
- 5日 金子万寿夫代議士による町内視察(町内)
- 6日 樟南第二高校体育祭(樟南第二高校)
- 9日 平成27年第3回伊仙町議会定例会開会(議事堂)

以上

※ 掲載されている行事以外にも、各種協議会及び集落行事等にも出席しておりますが、予めご了承下さい。

**編集後記**

町民の皆様毎日のお仕事お疲れ様です。さて、ミカンコミバエが奄美群島の全域で発生し、新聞やテレビ等で報道され、農家の死活問題になるのではないかと心配されています。そこで行政の指導とその対策については、住民に理解が徹底されていますでしょうか。農家はどの作物を作ればよいのか検討もつかない状況であると思われます。私たちの伊仙町議会においても、現状を捉え、国や県とも連携してミカンコミバエの撲滅を一日も早く終息させるように訴えていく必要があります。以前我々は、夏場に付加価値の高い作物として千葉県での落花生の研修や、兵庫県淡路島において、たまねぎの研修を行って参りましたが、病害虫にあまり影響のない徳之島の気候に適した作物を研修したことは、これからの農家にとっても効果がでるものと期待されます。全議員がそれぞれ、懸命に活動を行っておりますが、より多くの町民の方々による指摘や助言、叱咤激励があればこそ新たな発見ができ、私たち議員も日々成長していけるものだと考えております。議会に対するご意見や要望などをお寄せ頂き、活発な議会活動ができますようご協力お願い申し上げ編集後記と致します。

(文責 美山 保)

議会広報編集委員会

- 委員長 牧 徳久
- 副委員長 福留 達也
- 委員 美山 保
- 委員 平 博人
- 委員 永岡 良一